

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	すみれ
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀63-5		
自己評価作成日	平成28年1月3日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2278300211-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が、入居者一人一人を家族のような想いで接するように心掛けており、「お互い様の心」の理念の下、双方が支えあえる関係作りを行い、自信を持って生き活きと生活が送れるよう支援している。また、地域のとの関係が継続できるよう行事等積極的に参加する事で、顔見知りの関係作りから、世代を超えた関りに繋げている。明日香内の行事では、外食や外出等取りいれながら、五感で季節を感じてもらえるよう取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「お互い様の心」という理念のもと「明日香の理念10ヶ条」を作り、ひとつずつを毎月の目標として職員全員で共有し合えるようにしている。地域の人達が気軽に遊びに来られるように、老人クラブや地域の行事に積極的に参加して交流を図っている。近隣の駄菓子屋では名前を覚えてもらったり、帰りにお土産をもらうなどの交流をしている。管理者は、利用者が一人でも自由に散歩ができるようにしたいとの思いから地域住民との関わりを積極的に図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お互い様の心の理念を大切にし、入居者1人1人がその人らしい生活が送れるよう支援している。	「お互い様の心」の理念を基に、行動指針として10ヶ条を作成している。毎月1つずつを目標に掲げ、職員全員で共有している。ユニットごとに毎月の会議において結果の検証を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の福祉体験の受け入れや、自治会などが行っているブルーベリー狩り、公民館の掃除などへ積極的に参加し、地域の方との交流の機会を設けている。	地域の人達が頻回に事業所を訪れている。近隣の農家からみかんを貰ったり、ブルーベリー狩りに参加させてもらったり、また小学校からテントを借りて地域交流の場所を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や敬老会を行い、地域の方を招き交流を深める事で認知症の理解を深めることへ繋がるように工夫している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で家族から出た意見を、職員会議でスタッフ間で共有し、早期に改善策を出し対応している。また、ご意見箱を設置、利用する事で運営推進会議内で少人数で話し合いが出来る機会を作っている。	町内会長や家族・地域包括支援センター職員・行政などの参加があり2か月に1回開催している。毎回家族の参加が多く、運営推進会議時に避難訓練を行なうなどしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、日頃の取り組みを伝え、時には介護保険の事を行政から分り易くご家族に伝えて頂き協力関係を作っている。	区役所に出掛けていくことはあまりないが、運営推進会議に参加してもらい、連携のとれる関係を築いている。介護保険変更時などは行政担当者が運営推進会議において家族や参加者にわかりやすく説明をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関わる講習に職員が積極的に参加し、勉強会を行い、言葉、薬による拘束、出られないことでの不安、拘束によるリスクを考えてケアに繋げている。	玄関は施錠しておらず、自由に出入りができる。玄関から門までの広い庭には芝生が植えられており散策ができる。重い椅子は自分で動かすことができるように脚にカバーをはめて自由に動かせるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習で得たものを全スタッフで共有し、業務内でのコミュニケーションをこまめに取り合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を深め活用する為に、外部研修や勉強会で学び理解を深め職員間で情報を共有し、制度を活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、説明を行うと共にその都度必要になった際に再度伝えており、改定の際等は書面を通じご家族の同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、家族の意見を取り入れている。また、玄関にご意見箱を設置いつでも投函できるようにしている。	利用者の補聴器のつけ忘れなど、些細なことも苦情として挙げて全職員に内容を徹底させている。家族には定期的にアンケートをとり集計している。集計したものを配布し改善点も記入している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と面談を行いながら、出た意見等上司に伝えながら運営に反映させている。	年1回管理者と職員は面談を行い、また必要時に随時面談を行なっている。月1回会議を行い、出された意見は法人の施設長会議で検討され、経営陣に話が上がっていくシステムが作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行い、個々に反省と目標を出してもらい、達成状況や取り組みなど、昇給に反映させており、向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員研修に参加し、勉強する機会を作っている。また、勉強会を開き全スタッフで共有し実践に移している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内の月1回の勉強会に加え、外部研修に積極的に参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人困っていたり、不安な事を探りながら職員とゆっくりと話が出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、センター方式に記入して頂き本人の好きな事や困っている事、生活歴などの情報を集め、家族の不安や思いを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体に拘縮が見られる方や筋力が低下している方にはリハビリを導入したり、口腔衛生の為に訪問歯科の利用もすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設理念である「お互い様の心」を大切に、入居者様やスタッフ間で「ありがとう」と言い合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や食事会などの行事に家族にもご家族にも参加して頂く事で交流する機会を作っている。また、面会時には常に本人の様子を伝え共有し合い支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの店や場所に一緒に出掛けたり、馴染みの方が面会に来ていただきやすい環境作りに努めている。	職員は「おたがいさま」の関係継続の支援として月毎にテーマを設定し、日常生活に関わっている。家族の面会が頻繁にあり、運営推進会議には半数以上の参加実績があり特筆に値する。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごす時間が多い入居者様の部屋に訪室したり、入居者様同士の会話が繋がるようにスタッフは間に入り会話を盛り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族から勧められたと入居希望をいただいたり、自分や身内の心身の不安を相談に来られるご家族もあり退去後もいつでも対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がその人らしく生活出来るように、ご家族から本人の情報を聞きケアプランを作成している。	意向を把握するツールとして、センター方式の15シートを活用している。各シートは半年毎を基本とし、職員の合議を基に更新している。変化のあった内容は色分けし、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで本人が過ごしてきた場所。好みなどの情報をご家族から聞き、センター方式に記入、活用しスタッフ間で情報を共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身状態に変化があった時は日常記録に残し、職員間で情報を共有出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人から思いや願いを探り、ご家族から今までの生活歴や趣味嗜好をうかがっている。また、医師やリハビリ医より必要な事を聞きプランに反映している。	モニタリングは担当職員やケアマネジャー・管理者による客観的な評価が行われている。介護計画は生活の意向を重視し、且つヒヤリハット等の個別記録も参考にする。ほとんどの家族の参加がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートの使用、日常記録に体調の変化や、注意事項を記入しスタッフ同士での情報の共有が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事介助において、家族の願いや本人の思いを大切にして、長期間で嗜好品の提供や食事形態の改善等に取り組み食事量の低下を防いだ。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのあるお店に行ったり、地域の祭典に積極的に参加し地域の方達との関わりが持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	西遠クリニックから往診に来てもらい常に情報を交換し、何かあった際にはすぐに受診を受けれるように連携を組んでいる。	かかりつけ医は自由に選べることを説明し、確認を得ている。協力医療機関の医師が週1回往診している。看護師の訪問が毎日あり、医療連携体制が整っている。急変時の協力体制も構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師に来て頂き、日々の健康状態の把握に努め、その都度体調が優れない方など見て頂き、早期に受診するなど適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院とこまめに連絡を取り合い、本人のその時の状態を把握出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には、家人や医療機関とこまめに連絡を取り合い変化にすぐに対応出来るようにしている。また、ご家族が付き添いが出来るように布団やソファの用意をし、環境を整えている。	家族には「重度化した場合における対応に係る指針」を書面にて同意を得ている。看取りに関し、職員の負担感を考慮した研修も行っている。看取り期における介護記録の見直しを検討している。	「重度化した場合における対応に係る指針」に附随した介護記録や急変時の対応等における書類の整備を推進することが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を勉強会で学び早期に体調に気づき、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、実際に消防と連携を取っている。また、家族の方にも参加していただき、協力体制をとっている。	消防署及び家族による利用者の代役を務める協力を得て、前回の達成計画案であった2Fから1Fへの緊急搬送法の訓練を行っている。地域の協力を得る際の手順マニュアルや利用者誘導シールを作成している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念の1つとして、人生の先輩として本人を尊重し、得意な事を教えてもらいながら一緒にいとお礼を伝えている。	記録類は事務所に収納し、当該者以外の目に入らないような配慮をしている。職員へのアンケートを基に、職員間で尊重とプライバシーについて話し合い、より深い理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人が行きたいと思った時に行きたい場所へ行ける支援をしている。また日常会話の中やご家族の情報を参考に出掛ける場所を選び、生活の中でも自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先し、また伝えられない方も夜間の状態、その日の状態に合わせ柔軟に対応出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から化粧をしていた方は継続して行える支援や工夫をしたり、好みの服装等ご家族から情報収集し、定期的に訪問美容を取り入れカラーパーマにも対応していただき、その人らしいおしゃれが楽しめる支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の盛り付けや、調理を手伝ってもらい共に食事を楽しめるようにしている。	食事の音楽や職員の利用者への穏やかな声掛けが食事を楽しむ支援となっている。日曜日の昼食と夕食は、食材の手配から片付けまで利用者と職員が役割分担することで食事を更に楽しむ支援となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の少ない方は、嗜好品や栄養補助食品を摂っていく事でバランス良く栄養が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、晩は声掛けで口腔ケアを促したり、自分で出来ない方にはガーゼなどでケアをして口腔内の清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況チェック表を作成し、排尿間隔を探り、また本人の仕草などからトイレ誘導を行っている。日中は極力布パンツを使用し、尿意が無くならないように支援している。	排泄パターンと本人の様子からタイミングを推測し、プライドを守る誘導に努めている。できるだけ下剤に頼らないことを意識した散歩や運動・食物繊維の摂取、また水分摂取量の確保等に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい、遊びを通して体を動かしていただき排便を促している。また食事の際に粉末状の寒天など繊維の豊富な食材を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに、本人の疲労やタイミングを考慮し入浴をすすめている。また、入浴が好きな方には毎日でも入れる体制をとっている。	洗い場スペースが広く、入浴剤等の使用によりゆったりと入浴が出来ることに配慮をしている。入浴は週2～3回であるが、毎日の入浴希望者や同性介護にも職員の連携により対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体力に応じて、休息を促している。個々に気持ち良く眠れるように、こまめな室温や明るさ調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を管理し、内服出来ない場合は往診に指示を仰いでいる。内服薬をセンター方式に記入し、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を理解し、その人に合った家事や趣味などで出来る事を行い、気分転換が出来るように外出や買い物に誘ったり、嗜好品を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩に誘ったり、本人の馴染みの場所に出掛け近隣の方やお店の方との交流を深めている。	日課である散歩の際には、月1～2回程度で近隣の駄菓子屋にも出かけている。月1回程度の外出企画では、利用者の要望を勘案した計画で家族の協力を得ることも視野に入れ支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で保管出来る方には、お財布を所持していただき買い物へ行った際自分でお会計をしていたがけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話を所持し、自身で掛けられるようにしたり、年賀状や暑中見舞いを家族や地元の方に送り、交流に繋がれるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量を心地よい音量になるようにスタッフ同士で注意し、見て楽しめるように花を飾ったり、壁飾りを入居者様と作りフロア内や居室に飾っている。トイレには消臭剤を置き過ごししやすい環境作りに努めている。	フロアの雛人形に添えられた雛あられは、雛祭りの期待感を呼び起こす演出になっている。キッチンには採光に配慮されたフロアの一角にあり、利用者が行き交う居場所のスペースであり支えあう場にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	声をかけ、入居者様同士が楽しめるように歌番組を観ながら歌を唄い会話が楽しめるようにスタッフが間に入り盛り上げている。フロアにソファを置いたり各居室に馴染みの物を置き空間作りが出来るように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていた馴染みの家具や寝具をご家族と相談しながら持ってきていただき、使い慣れた物を近くに置く事で安心できる環境を作っている。	家具等はすべて持ち込みを想定した居室である。訪問した居室の利用者は自室に満足している事が会話から類推できた。簞笥や飾りつけ、畳を設けたりと利用者の人柄が居室ごとに思い起こされた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの力に合わせて、個人の居室を掃除をしていただいたり、台所での食材切りや食器洗いなどその人に合わせた支援を行い出来る事を大切にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	ひまわり
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀63-5番地		
自己評価作成日	平成28年1月3日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail.2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2278300211-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が、入居者一人一人を家族のような想いで接するように心掛けており、「お互い様の心」の理念の下、双方が支えあえる関係作りを行い、自信を持って生き活きと生活が送れるよう支援している。また、地域のとの関係が継続できるよう行事等積極的に参加する事で、顔見知りの関係作りから、世代を超えた関りに繋げている。明日香内の行事では、外食や外出等取りいれながら、五感で季節を感じてもらえるよう取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お互い様の心の理念を大切にし、入居者1人1人がその人らしい生活が送れるよう支援している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神社の祭典、草取り、さつまいもの苗付け、ブルーベリー作り等個々に本人の好む、地域の行事等積極的に参加し、顔見知りの関係ができるように支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	明日香の行事に参加して頂く機会を作ると共に、地域の行事に参加する際は事前にあいさつに行くようにし、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見、要望等、職員会議を通じ職員に伝え早期に対応できるような取り組みを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、日頃の取り組みを伝え、時には介護保険の事を行政から分り易くご家族に伝えて頂き協力関係を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通して職員へ伝えると共に、ご家族に対しても身体拘束を行う事でのリスクや危険を伝え、共通の認識を持ち、身体拘束をしない取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加すると共に、アンケート等で共通の認識を持ち、職員同士がコミュニケーションを取ることで、見過ごす事がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に参加すると共に、ご家族に伝え、必要な時に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、説明を行うと共にその都度必要になった際に再度伝えており、改定の際等は書面を通じご家族の同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じ話し合う機会を作り、その都度、ご家族から意見を聞き、職員に伝えながら運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と面談を行いながら、出た意見等上司に伝えながら運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行い、個々に反省と目標を出してもらい、達成状況や取り組みなど、昇給に反映させており、向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人以外の研修や、事業所での研修に積極的に参加して頂き、働きながら能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人以外の研修で、同業者との交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人困っていたり、不安な事を探りながら職員とゆっくりと話が出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、センター方式を使用しながら家族の想いや不安に対応出来るように面談を行いながら安心して入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と相談しながら、歯科往診や、リハビリの必要の有無その他のサービスについても柔軟に対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている力を大切に役割作りにつなげ、介護される立場だけではなく、誰かの役にたてる、支えあう関係性を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度、ご家族に状態を伝えながら、一緒に考え、時には協力していただきながら本人が安心できるケアに繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	良く通っていた場所に行きたい時に行く事や近所の方が気軽に遊びに来て頂ける様関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で関われるよう、その都度状況に応じ食事の場所を工夫し、また共通の話題、趣味が出来るよう職員が関わりながら対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族から勧められたと入居希望をいただいたり、自分や身内の心身の不安を相談に来られるご家族もあり退去後でもいつでも対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしについてご家族から情報を頂くと共に、日常会話から本人の意向等も取り入れ、自分らしく暮らせるよう援助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に使用していたサービスの情報を聞き、必要であれば、以前使用していた所に相談する等行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅での過ごし方を参考に、本人に合った生活リズムになるよう出来ることは自分で行っていたくように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、ご家族に状態を伝えながら、一緒に考え、半年後と状況に合わせて現状を見直し、その時々合った介護計画の作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りの時間を充分にとり、日常記録を参考に課題を抽出している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事量の低下されている方等、ご家族に協力頂きながら、嗜好品を進めたり、自宅で日課となっていた事の継続的支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の神社の清掃や学童保育のバザーへの参加、スーパーへの買い物等心身の力の発揮に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	西遠クリニックとの医療連携の下、家族を含め相談し、かかりつけ医に継続的に通う方もおり、本人の希望に沿った医療の支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師に来て頂き、日々の健康状態の把握に努め、その都度体調が優れない方など見て頂き、早期に受診するなど適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は職員が付き添いご家族と共に状態を伝え、定期的に本人の様子を伺い、その都度病院と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に伴い起こり得るリスク、可能性を含め、その都度ご家族に相談し、話し合う機会を設けている。必要時には、専門医や、看護師から直接説明して頂きチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等は緊急時のファイルに備えており、また糖尿病など持病に対する急変時の対応等日常記録に備え、適切に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は地域、家族、行政等協力して頂き、また改善点等その都度見直しを行い、年1回消防署の指導を受け、協力体制を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の性格、人格、今までの生活歴などを考慮しながらそれぞれに沿った言葉かけや対応をし、アンケートを行いながら職員同士が気をつけるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人が行きたいと思った時に行きたい場所へ行ける支援をしている。また日常会話の中やご家族の情報を参考に出掛ける場所を選び、生活の中でも自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先し、また伝えられない方も夜間の状態、その日の状態に合わせ柔軟に対応出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から化粧をしていた方は継続して行える支援や工夫をしたり、好みの服装等ご家族から情報収集し、定期的に訪問美容を取り入れカラーパーマにも対応していただき、その人らしいおしゃれが楽しめる支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に食材切り、盛り付け等得意な事を行いながら、片付け等協力しながら順番で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をもとに嗜好品等として頂き、水分に関しても、お茶に限らず、牛乳、コーヒー、スポーツ飲料等好む物で水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、口腔内に食物残さが残らないよう口腔ケアを促し、介助を行い必要な方は歯科往診に定期的にみて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況チェックシートを用いて排尿間隔を探り、本人のタイミングに合った誘導を行っている。出来る限りトイレでの排泄に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は玄米を混ぜたり、水分を促したり、日中の活動量が増えるようラジオ体操や階段の使用など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に毎日入浴を楽しむ方もおり、あまり入ろうとされない方もタイミングや言葉がけを工夫しながら気持ちよく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や状態に合わせ、日中も食後休息を促すなど生活にメリハリを持たせ、気持ちよく活動して頂き夜間の睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、入居者がどの薬を飲んでいるか把握すると共に必要に応じて、副作用起こり得るリスクを連絡ノートで情報共有を計っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に役割を取り入れることで、張り合いや、誰かの役に立つ喜びに繋がっている。昔からの趣味歌や編み物、園芸など楽しめる様に柔軟に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族、地域の協力のもと、馴染みの駄菓子屋、お墓参り、住んでいた家など本人の行きたい所や馴染みの場所に行ける様支援している。また季節事にいちご狩り、夏祭り、紅葉、花見など楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望のもと能力に応じてお金を管理していただき、買い過ぎのないようさり気なくフォローを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける際は、出来る限り、本人と代わり、年賀状や暑中見舞い等ご本人と家族との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事に馴染みのある飾りを飾り、共有スペースは心地よく過ごせるようにしている。また入居者が台所仕事しやすいよう椅子やテーブルを置いたり、食器棚の食器の配置も工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居時にご家族と相談しながら、くつろげるお部屋を考えていただいたり、フロアや廊下にソファを置き、個々に一人の時間を楽しめる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力のもと使い慣れた家具を持ってきて頂き、自宅で居た時と近い環境で過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は広々としており、車椅子やシルバーカーを使用しながら自立した生活が行えるように支援している。		